公開学術シンポジウム

権威主義体制と報道・研究の自由

北海道新聞記者拘束事件から考える

2026 年 12 月 8 日（火）
18:30-20:30
東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール
オンライン配信あり

ロシア連邦保安局（FSB）がスパイ容疑で北海道新聞ユジノサハリンスク支局の今井裕紀記者を拘束した。この事件は、取材・報道の自由と、私たちの知る権利について、多くの問いを私たちに突きつけている。ロシア当局の狙いは何か。日本政府の対応は十分なのか。ジャーナリズムの独立をどう守るべきなのか。無関心や沈黙によって、理不尽な状況を容認してはならない。本シンポジウムでは北海道新聞の北方領土・ロシア報道の原点と歴史を踏まえ、拘束事件の背景と構造、日本政府や北海道新聞・その他報道機関の対応、日本のインテリジェンス政策の在り方を検証し、ロシアや中国など権威主義体制での報道・研究の自由をめぐる課題を考える。12 月 12 日に勾留期限を迎えるなか、立場を越えて議論し、私たち一人ひとりが取りうる行動と連帯の在り方を探る場としたい。

司会

遠藤乾
東京大学大学院法学政治学研究科教授
国際政治・外交安全保障

パネリスト（順不同）

岩下明裕
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター特任教授
ロシア外交・北方領土問題

山谷賢量
元北海道新聞モスクワ支局長
道新のソ連ロシア報道・日露関係

吉田浩正
元北海道新聞記者・根室支局長
北方領土・北洋漁業問題

市原麻衣子
一橋大学大学院法学研究科教授
インテリジェンス・影響工作

阿古智子
東京大学大学院総合文化研究科教授
中国社会・人権問題

城山英巳
北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
現代中国・ジャーナリズム

※元道新記者らでつくる「ロシアで拘束された道新記者の解放を求める会」からの報告もあります。

参加無料　定員 200 名

←事前申し込みはこちらから



会場案内図（東京大学ウェブサイトより）

京王電鉄井の頭線
駒場東大前駅下車

申し込みせず直接会場に来ていただいても構いません。

問い合わせ・連絡先　城山英巳（北海道大学）
shiroyama@imc.hokudai.ac.jp